

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人千鳥会	代表者	吉村秀樹	法人・事業所の特徴	要介護度や事業所都合での支援内容の制限、調整は行っていない。登録制で通い・泊り・訪問については限度額がない小規模多機能事業所であるからこそ、例え軽介護度の利用者であっても必要な方に必要な支援を行っている。事業所の定員や体制に応じてではあるが、相談に対し、できることを提案しながら利用者家族と一緒に悩み考えていく事業所でありたいと考えている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	管理者	池田英生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	0人	1人	1人	1人	3人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	支援内容が多岐に渡る事業所として独自の倫理観を共有していくことを目標とする。具体的には今年度のスローガンを作成。毎朝のミーティング時に唱和して日々、浸透していけるようにする。またご利用者のこれまでにあらためて個々に尊敬の念を抱くことができるよう、ご利用者ご家族の協力のもとこれまでの人生観を学ぶ勉強会を2か月に1回開催する。	1年間、朝の申し送りミーティングにて、事業所独自のスローガンを唱和確認し、支援にあたってきた（スローガンフレーズとその要約）。	福祉観や倫理観の共有にあたり職員の潜在的な意識にも深まり、法人、事業所の福祉観に基づいたスタイルも確立できたように感じている。1年間継続できたことは成果としても現れた。実際に1件1件相談依頼にも事業所として寄り添った関り方ができたかと考える。結果として、心身の変化の中、既存の生活を維持できる利用者が過去に比べても多かったと感じている。	法人、施設、事業所の福祉観であるスローガンの周知の継続。そのうえで個人の意見も反映し合えるような機会や業務の取り組み。事業所部署目標に沿った個人目標に具体性を持たせ、利用者支援に対して個々の意見や発案の自由性を持たせる。実施については、事業所や家族の判断のもと実支援に活かしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境				
C. 事業所と地域のかかわり				
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			ご利用者の生活を維持支援していくための目標や支援方法を日々見直しながら関りを持っている。ご本人の自尊心や生活様	今年度は一つの実績としては、宿泊旅行も初めて試み、叶えることができた。次年度も心身の状態に寄り事業所の支援が増えても、馴

			式を大切にしながら、ご家族や地域、社会常識も含めた視点も考慮している。そして最終的な利用者ご家族、支援者も含めた最終的な共通の認識できる目標に落とし込むようにしている。	染みの地域や行事、外出など以前の日常を取り戻す取り組みを継続して行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み				町内会の計画を教えて頂き、災害の種類によっては、事業所が避難等役割を担う場合もあるかといえる。施設、事業所としても、その計画に沿って施設事業所内の想定も改めて検討していきたい。
F. 事業所の 防災・災害対策	事業所での防災訓練に加え、淡路市や地域の訓練時に同時に事業所としても訓練を開催、参加を行う。また長期的な視点で、自治会との防災訓練を実施できるようにしたい。そのためにも専門性も活かし、運営推進会議委員の方々に協力も頂きながら今後とも地域との関係を深めていく。	淡路市の訓練は岩屋地区で実施。その際に合わせて開催や合同・参加はできなかった。施設・事業所内では津波・火災訓練含め防災訓練を実施した。	町内会の防災計画も策定予定である。	また施設事業所自体が、その高齢者の介護や福祉に関する部分を担える相談窓口として、機能できるように日々、利用者支援への実績を重ねるとともに、地域への働きかけも行っていきたい。